

☆ 3.11 被災花卉生産者のための募金事業報告

3.11 被災花卉生産者のための義援金 ～ 失望と感謝の90日 ～

2011年3月11日の東北地方太平洋沖地震と原発事故によって被災した花卉生産者（以下、生産者）のために設けた「3.11 被災花き生産者のための義援金」（以下、義援金）の経緯を報告する。次は「西日本大震災」を示唆する「東日本大震災」は使いたくなかった。

4月の幹事会で「生産者の被害は大きくない。4～5件だけ」という市場情報を聞いた。これを信じたのは失敗だった。5月29日、「鶴島久男氏を送る会」で矢祭の金沢美浩氏から、深刻な生産者の被災状況を聞いた。6月8日、幹事長に「義援金として花葉会基金から1000万円を出動する提案をしたい。そのために臨時幹事会を」と提案した。だが、その臨時幹事会（6月26日）で提案は否決。賛成意見は山下幹事だけ。彼女は議員として「勘所」が分かるようだ。その通り、これは花葉会が男？になる絶好のチャンス、花葉会発展の支えになるはずなのだ。次回幹事会で、各自、震災関係事業を提案することとした。7月24日の幹事会で「広く募金し、不足分を花葉会基金で補い1000万円を義援金として被災生産者代表に渡す」という代案に賛意を得た。渡辺均副会長提案の「被災生産者の子弟を対象とした就学支援奨学金」、幹事長他数人の提案による現地セミナーも事業として計画された。基金の出動はもちろん総会の議決を待たねばならないが、ともかく義援金活動は動き出した。

まず、義援金の受け皿を作る必要があった。花葉会

は、生産者の被災状況に応じて、義援金を傾斜配分することを求めたので、受け皿には大きな負担を強いることが想定されていた。宮城県では「宮城県花と緑普及促進協議会」（百々喜明会長）が引き受けてくれた。実務を担ったのは県農林水産部農産園芸環境課の足立陽子氏である。茨城県では「（社）茨城県花き園芸協会」（久家源一会長）が引き受けてくれた。実務は県産地振興課の矢島めぐみ氏である。残りの3県は時間がかかった。岩手県では生産者の全県組織が廃止されていた。専門技術員の川村浩美氏に協力を得て、戸定会OBの佐藤明氏に「岩手県被災花き生産者を支援する会」を設立してもらい、現地業務をお願いした。福島県には生産者の全県組織「福島県花と緑の国づくり協議会」があるが、事務局がJA全農福島のためか、「あらゆる組織と無関係に、生産者に支援金を」と求める花葉会に対して、「農協組合員なら、配れますけど」と、断られた。やむなく、当時、福島県鉢花生産者協議会の副会長であった高玉恵治氏に、受け皿として「福島県花卉生産者復興協議会」を設立して頂いた。私は、その設立総会に参加して、花葉会の趣旨を説明し、協力を依頼した。事態が最も複雑であるはずの福島県から、非常に詳細な被災状況が報告されてきた。福島県で行政の協力が得られなかったのは仕方がない。千葉県には花卉生産者の全県組織として「千葉県花き園芸組合連合会」があるが、県内被害が北部に集中しており、



義援金贈呈式より

実態がつかめないとの理由で受け皿を断られた。やむなく「ちば花と緑の会」会長の小澤和英氏に受け皿として「千葉県海匝地区等被災花卉生産者を励ます会」を設立してもらった。実務は海匝農業事務所の松若真由美と間宮悠介両氏である。旭市を中心とした被災地の詳細な状況が調べられた。上記5組織の総体を「東北地方太平洋沖地震で被災した花卉生産者の会」と称して義援金の直接の受け皿となり、5県への配分、更には個々の被災生産者への配分をお願いした。この配分に花葉会は関与しなかった。

9月1日、花葉会サマーセミナーへの過去の参加者1089名に義援金のお願いを送り、花葉会ホームページに同文を掲載。9月13日、花葉会会員1044名に同文を送る。10月23日の花葉会総会で、この義援金活動と就学支援奨学金が、総額1200万円の事業として承認された。各県の花卉関係組織の代表者、知人などに、地方の義援金の取りまとめを依頼するなど、11月末までの90日間義援金の募集に私は傾注した。失望と感謝の双極、そんな90日だった。日本花卉生産協会から協賛を断られた。花葉会は任意団体で格下、それが理由らしい。協力を断る県の大物生産者もいた。

最終的には、全ての都道府県から275件、計571万1567円の義援金を頂き、これに花葉会基金から496万5946円を補填して総額1028万円とし、12月18日、千葉大学園芸学部内100周年記念戸定ヶ丘ホールで開催した「3.11被災花卉生産者のための義援金」の贈呈式で「東北地方太平洋沖地震で被災した花卉生産者の会」代表、高玉恵治氏へ義援金の満額を手渡した。同会は合議にて岩手県に36万円、宮城県に360万円、福島県に482万円、茨城県に60万円、千葉県に90万円を配分した。県内でも義援金は事情に応じて傾斜配分されていた。集計された重大被害の生産者は171戸。被災者はあまりにも多く、支援金は一戸平均6万円にし

会計報告	
収 入	
義援金	5,691,567
締切以降募金	20,000
義援金贈呈式交流会費	37,000
花葉会から	4,965,946
合 計	10,714,513 円
支 出	
5県へ義援金	10,280,000
花葉会負担振込手数料	48,864
事務費	33,149
交流会費	60,000
旅費	89,080
合 計	10,714,513 円
差 引	0 円

かならなかった。活動経費はすべて花葉会が賄ったが、届けられたのは支援したいという、全国の、普通の人の普通の心だけだった。精一杯の努力とはいえ、非力を痛感する結末となった。

人がこれほど鮮明に見えたことはない。生涯、決して忘れることはないが、失望した人の事は口にせず、感謝したい人だけにその意を表すことにした。明日は我が身。情けは人のためならず。人はやはり、心を鍛えておかねばいけない、と思った。馬脚はこんな時に顕れる。

頂いた義援金に軽重はないが、特記させてもらえるなら、社員一同の募金をまとめて頂いた河野メリクロングループ、日本の生産者を支援するために台湾の花卉生産者組織＝中華文心蘭産銷發展協會がもちよったオンシジウム切花を、銀座の街角でさしあげて、義援金を集めた切花輸入商社＝トップライン、地球の反対側アルゼンチンからの義援金、それになにより貧者の一灯・・・心豊かな人がいっぱいだった。それに現地情報収集と義援金の配分に尽力された方々に対しても、ここに万感の思いを込めて、謝意を表する次第である。
(花葉会名誉会長：安藤敏夫)



義援金贈呈式より